

- 近年、ネットワーク上を基盤とするデータ送受信技術の向上
 - － 暗号化通信
 - － コンテンツ配信
- ネットワーク上での危険性
 - － 盗聴者がリンクやノードを盗聴する
 - － 第三者が不正にコンテンツを復元する
- 安全なコンテンツ配信技術の必要性
 - － コンテンツを送信するための配信経路を検討

～ 秘密分散法 ～

※ (k,n) 閾値秘密分散法の流れ

- ① 元コンテンツを暗号化
- ② n個の部分コンテンツ(ピース)に分割
- ③ k個以上のピースを集めると復元可能



図1: (k,n) 閾値秘密分散法の概要図

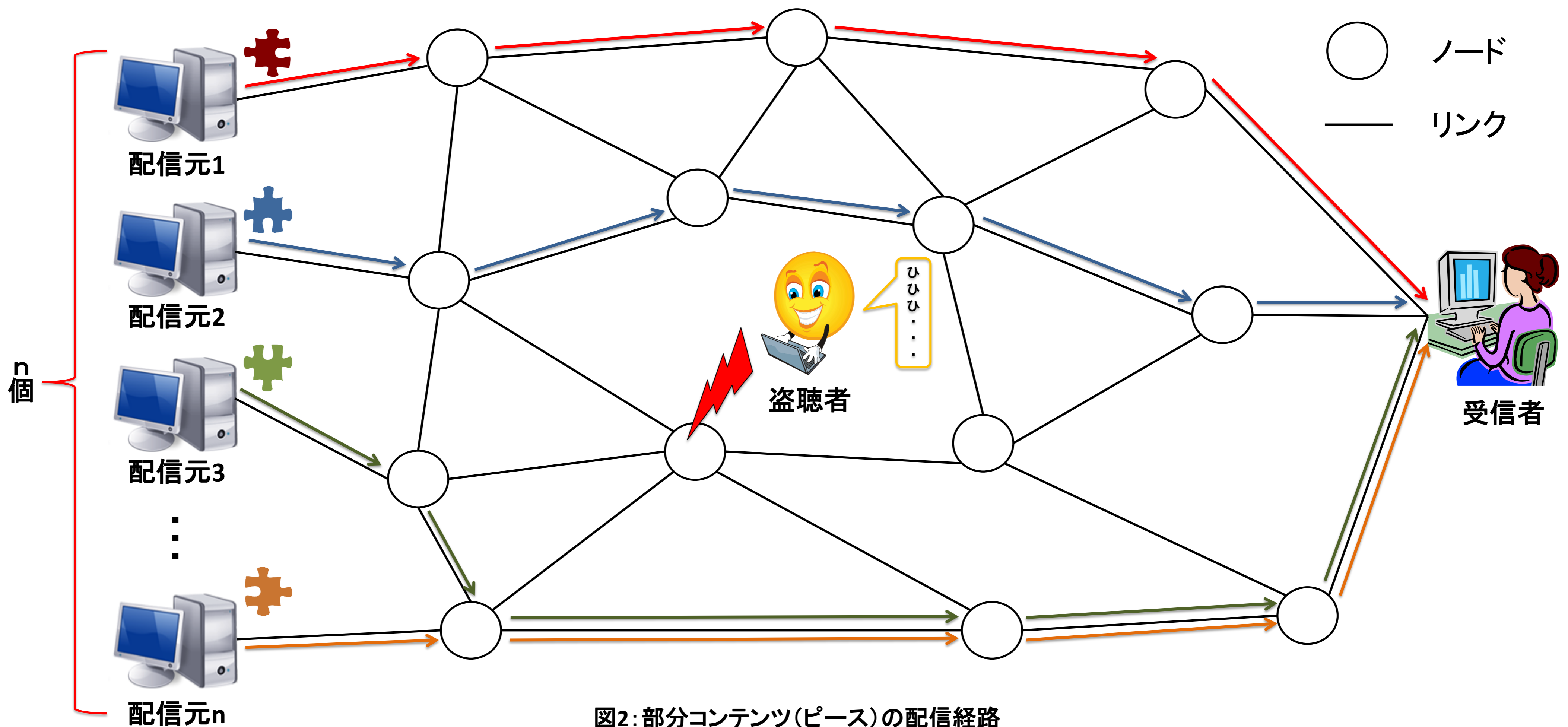


図2: 部分コンテンツ(ピース)の配信経路

- ・ 配信経路を逐次的に算出する
 - － 整数計画法やダイクストラ法等を用いて比較
- ・ 経路算出の際、なるべく重複するリンクを通らないようコスト調整を行う
 - － 部分コンテンツ(ピース)の配信経路で通過したリンクのコストを増やしていく
- ・ 配信経路を算出するための計算時間について検討する
 - － 配信経路の算出方法についてそれぞれ比較